

農林課所属

商工観光課所属

教育課所属

保健福祉課所属

うえの たかひろ  
上野 貴弘 隊員 令和3年5月着任

比布町での生活と各種事業に携わる日々は、地域の魅力を再発見する素晴らしい経験となっています。自然豊かな環境の中、町民の皆さんとの温かい交流は、この地での生活をより豊かなものにしてくれます。

私は子ども向け運動教室をはじめ、高齢者向け健康体操、生活習慣病改善を目的とした「ピピカツフィットネス」など、幅広い年齢層を対象にした活動を展開しています。これらを通じて、健康で活力ある町づくりに貢献していくことが目標です。

今後は「ピピカツフィットネスライト」という新たな大人向け運動教室や、地域全体が楽しめるスポーツイベントの企画を進めていきます。町民の皆さんと一緒に健康で元気な比布町を作るため、大きな期待と意気込みを持って取り組んでいきます。



じょうの しょうへい  
城野 翔平 隊員 令和5年4月着任

協力隊として比布町に住み始めて1年が経ちました。町内の清掃活動や夏祭り、ミニバレー大会などさまざまな地域活動に参加させていただきましたが、皆さんとても仲が良く、住みやすい町だと感じています。

現在の私の活動は、幼児から高齢者といったすべての町民を対象にした運動指導や、小中学生対象のバレーボールクラブの運営などが中心です。

今後も運動することの大切さや楽しさを感じてもらえるような指導や、バレーボールのさらなる普及を目指して活動していきます。今年度もよろしくお祈いします。



農林課所属

商工観光課所属

教育課所属

保健福祉課所属

あずまや ゆうすけ  
東谷 優輔 隊員 令和5年4月着任

比布町に来て1年経ちますが、最高の町だとしみじみ感じています。人は温かいし、美味しいごはん屋さんもあるし、自然も豊かで、本当に比布町が大好きです。

私は主にピピカツ事業の推進を行っています。町民の皆さんがより健康になるよう運動面でのサポートや、子どもたちが生涯に渡り運動好きになるような活動の企画運営をしています。

就任2年目になるため、昨年の経験を生かし、運動という切り口から町民の皆さんがドキドキワクワクするような取り組みを行っていきますので、ぜひ期待してください。頑張ります!



地域のために、誰かのために。

特集 地域おこし協力隊活躍中!



都市圏から移住し、地域に新しい風を吹き込む「地域おこし協力隊」。採用した自治体には国の財政措置があり、隊員は最長3年間という活動期間の中で、地域の活性化につながる取り組みや生業づくりに取り組みます。

本町では平成28年度に初めて導入。今年度新たに加わった3人を含めて、現在は13人の隊員がそれぞれの分野で活動しています。

地域で活躍する隊員を地域の皆さんに広く知っていただくため、活動内容や比布町の暮らしについての感想をまとめました。この機会に、地域おこし協力隊について理解を深めていただければ幸いです。

農林課所属

商工観光課所属

教育課所属

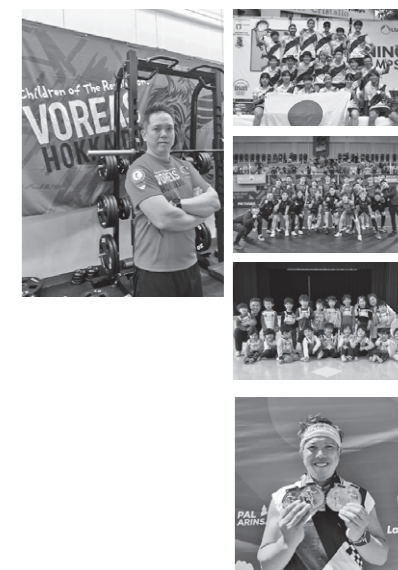
保健福祉課所属

ふじもと たかやす  
藤本 隆靖 隊員 令和2年8月着任

私の就任ミッションはピピカツ事業、さらに、プロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」とのパイプ役、チームサポートです。ピピカツ事業では運動や食育への取り組みに携わり、幼児から高齢者まで多くの方に運動の楽しさを知ってもらい、継続できるようにサポートしていきたいと思っています。

比布町を練習拠点として活動しているヴォレアス北海道は、何年も入れ替え戦での敗退を経験し、昨年初めてV1のステージで戦うことができました。トレーナーとしてチームに合流し、選手のメディカル（けがをした選手の運動機能回復）、ストレングス（体力・身体機能の向上）、栄養指導を担当し、遠征にも帯同しました。来シーズンはバレーボールの新リーグSVリーグ参入が決まり、より多くの皆さんの応援を受け、日本のトップ選手と戦うヴォレアスの姿をお見せできることと思います。

比布町に来て4年になりますが、町の環境には不自由なく生活しています。役場の方々の温かさ、そして町民の皆さんの温かさを常に感じています。試合会場で声をかけてくれたり、いつも勇気づけてくれたり感謝でいっぱいです。この町を今よりも健康で楽しい町にしていきたい。そんな思いを実現するために日々活動しています。



藤本隊員・上野隊員の任期が3年を超えていますが、コロナ禍の影響により活動に大きな制約を受けた隊員（令和元年度から3年度までに任用された者に限る。）は、最大2年間を上限として任期の延長の特例が認められているため、引き続き活動していただいています。



農林課所属

商工観光課所属

教育課所属

保健福祉課所属

おりた えりな  
織田 恵梨奈 隊員 令和4年9月着任

皆さん優しい方ばかりで、のどかで良い町だと思います。  
ふれあいファームたかだ畑さんで2年間、農業の研修をして  
いました。最初は分からないことだらけでしたが、たくさん  
のことを学び、現在は独立を目指して活動しています。アスパラ  
をやるのが決まり、今は来年の収穫に向けて準備に取り組ん  
でいます。立派な農家を目指して頑張っていきたいと思ひます。



こでら たける  
小寺 猛流 隊員 令和4年9月着任

皆さん優しく町も住みやすく、良い町だと思います。  
ふれあいファームたかだ畑さんで2年間、主に農作物、農業  
の扱い方、トラクターなど重機の操縦などを学びました。現在  
は独立を目指して活動しています。アスパラをやるのが決まり  
、今は来年の収穫に向けて準備に取り組んでいます。



よしめき りょうへい  
吉目 木良平 隊員 令和4年9月着任

就農に必要な技術や資格を修得するために協力隊として比布  
町に移住して1年半が経ちました。夏の暑い中での農作業は大  
変な時もありますが「世界一大雪山がきれいに見えるまち」比  
布町の景色に癒されながら、農業の魅力を感じる充実した日々  
を送っています。

また、町内のイベントや飲食店などで声をかけてもらうこと  
も増え、この町の温かさを感じています。

将来は有機野菜の栽培・普及に携わりながら、田舎暮らしに  
興味のある新たな移住希望者の窓口のような存在になれたらと  
思っています。



たきもと ひろまさ  
瀧本 浩雅 隊員 令和5年4月着任

都会の喧騒から離れて穏やかな心になれたのが第一  
感です。また、過去に北海道に住んでいた頃、夏はカラッとし  
ていて梅雨のある地域のまとわりつくような暑さはない印象で  
した。久しぶりに北海道の夏を堪能して、思い出の夏の気候で  
は無くなっていて、時が経ったな、とあらためて感じました。

昨年、農家の方のご協力で農業の勉強をさせていただい  
ています。まだまだ分からないことがたくさんありますが、経  
験したことが無いことばかりで楽しく勉強をしています。

昨シーズンを通して気になることや、やってみたいと思っ  
たことにチャレンジしたいです。就農を目指して頑張ります。



農林課所属

商工観光課所属

教育課所属

保健福祉課所属

のむら としや  
野村 俊也 隊員 令和5年4月着任

根曲がり竹細工の職人になる夢を胸に、協力隊として竹細工  
を学んできました。町内に自生する根曲がり竹を材料に、暮ら  
しの道具を制作しています。「その地に自生する植物で籠を編む」  
「材料を自分で調達するところから始めたい」、東京に居た時か  
らずっと望んでいたことが今こうして実現できていることが、  
何よりもうれしいです。

籠は、北海道や東北地方では農業や漁業の運搬用として作ら  
れてきた歴史があり、仕事や暮らしに欠かせない道具の一つで  
した。作り手の高齢化が進み衰退の危機にある今、この手仕事  
の文化を後世に伝え、さらに発展させるために、籠の魅力をも  
より多くの方に伝えていきたいです。今年度は町内でも体験会な  
どを開催予定ですので、ご参加いただけると嬉しいです。



のむら なおみ  
野村 奈緒美 隊員 令和5年4月着任

夫婦で東京から移住し、この春で一年が経ちました。比布町  
での暮らしは、自然豊かで四季の変化を繊細に感じることで  
き心地良いと感じています。冬の寒さには驚きましたが、東京  
では見ることのできない樹氷やダイヤモンドダスト、雪解けの  
田んぼに春を告げる白鳥、満天の星空、大雪山。住み続けてい  
ると当たり前風景ですが、どれも素晴らしく魅力的です。

協力隊としては地域資源を生かした根曲がり竹細工を学ん  
できました。根曲がり竹だから実現される、しなやかさと丈夫さ  
の両立、流行り廃りにとらわれず時代を超えて愛される美し  
さ、道具を親から子へと長く使い続ける意味や手作りの面白さ  
を少しでも多くの方に伝えていけるよう、比布町での暮らしと  
協力隊としての活動をさらに楽しみ、夢に向かって前向きに挑  
戦し続けたいと思ひます。



こんなこと、やってみました。

2023.6.19  
学校給食に  
サニーレタス登場  
吉目木隊員が栽培  
したサニーレタス  
を使ったスープ  
が、学校給食に登  
場。子どもたちに  
も大好評でした。



まち発信係が取材した、協力隊員に関する出来事を一部紹介します。

2023.10.9  
第1回  
比布ポッチャ大会  
年齢に関わらず楽  
しめる軽スポーツ  
「ポッチャ」の町  
民大会を東谷隊員  
が企画し、町教委  
が運営しました。



2024.1.17  
北海道知事に  
竹細工をアピール  
鈴木直道北海道知  
事が協力隊員と意  
見交換などを行う  
「スクラムトーク」  
に、野村隊員夫妻  
が参加しました。



保健福祉課 所管

シンタ・ヌルディアナ 隊員  
令和6年4月着任



入所者と笑顔でコミュニケーションをとるシンタさん(右)



シンタ・ヌルディアナさんは、特別養護老人ホーム「あそか苑」(社会福祉法人大悲会運営)で介護職員として働きます。インドネシア出身の46歳で、やわらかな笑顔が印象的。日本語は母国で独学で学び、東京都にある日本語学校に2年間通っていたため、会話や読み書きがとても上手です。人と関わるのが好きで、介護の仕事に就きたいと、今年3月までの2年間、東川町にある旭川福祉専門学校で介護福祉を学びました。

シンタさんはあそか苑の職員として、入所者の食事や入浴といった日常生活の援助の仕事に関わり、季節ごとの行事・レクリエーションにも参加します。また、介護福祉士などの資格取得も目指しています。あそか苑に外国人職員が着任するのは初めて。協力隊任命式に出席した大悲会中野芳宣理事長は「第2、第3のシンタさんが生まれるように、シンタさんをサポートしていきたい」と話しました。



協力隊任命式の様子

これからよろしくお祈いします

4月1日、新たな地域おこし協力隊員として3人が着任しました。3人は同日行われた任命式に臨み、辞令書を手に目標を語りました。



PIPPU LOVERS

比布町地域おこし協力隊

- vol.19 荒尾 怜音さん
- vol.20 シンタ・ヌルディアナさん
- vol.21 稲原 周作さん



商工観光課 所属



いなはら しゅうさく  
稲原 周作 隊員  
令和6年4月着任

稲原周作さんは、旧蘭留小学校舎を活用し、木製バット工房の開業に向けて取り組みます。帯広市生まれの24歳。父が転勤族で、高校卒業までを道内各地で過ごしました。小学2年生で野球を始め、ポジションはピッチャー。旭川実業高校野球部では主将としてチームを牽引しました。大学卒業後は北海道を離れ、木製バットの主産地・富山県南砺市にあるバット工場に勤務。独立を考えた頃、協力隊募集を知り、応募に至りました。旭川市で過ごした期間が一番長いという稲原さん。比布町には野球少年団の試

合や学校のスキー授業などで訪れたことがあります。移住して1か月が経ち「比布町はのんびりとした空気が流れ、田舎に住み慣れている私にはとても落ち着く街並み。気になるお店も色々あるので、これから足を運んでみたい」とほほ笑みながら話します。今後は木製バット作りの環境を整え、技術の向上、SNSなどを活用した販路拡大に向けて取り組みます。「高校野球などで木製バットの需要が増えていることも追い風。バットの直売も考えているので、来町するきっかけになればうれしい」と将来像を描きます。

総務企画課 所管



あらお れおん  
荒尾 怜音 隊員  
令和6年4月着任

プロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」に所属する荒尾怜音さんは、バレーボールを通じて町を活性化する取り組みに携わります。熊本県菊池市出身の23歳。バレーボール一家に生まれ、3歳にはバレーボールを始めたため、23歳にして競技歴は20年以上になります。熊本鎮西高校では、1年生からレギュラーリベロとして活躍。「高校ナンバワンドリベロ」と称されるほどの実力で、春高制覇や数々の全国大会に出場し、注目を集めてきました。早稲田大学に進学すると令和2年、3年の全日本大

学選手権(インカレ)で連覇に貢献し、自身もリベロ賞を獲得。輝かしい成績を残した荒尾さんの進路を心待ちにしていたバレーボールファンも多い中、今年2月、ヴォレアス北海道への入団が発表されました。荒尾さんにとって、北海道での生活は初めて。任命式では「比布町にも少しずつ慣れながら頑張っていきたい」と話されました。インスタグラムのフォロワー数が5万人という発信力の持ち主でもあり、「大好きなバレーボールを中心に、SNSなど流行をうまく活用しながら比布町を盛り上げたい」と意気込みます。